

コロナ禍における建築ウォッチング 2020 の開催

2020年度は、相次ぐお祭りイベントや、予定されていた行事が早々に中止に追い込まれていく状況下、JIA 三重でもZoomを使った例会役員会で、建築ウォッチングは開催する運びとなるものの、様子を見て延期か中止は避けられない状況で計画を進める事となりました。また、従来開催してきた内容では、緊急事態宣言下に置かれた場合、中止せざるを得ない部分があり、大きなリスクを負う事も考えられました。以前の開催実績から、現地集合、現地解散の建築ウォッチングが開催された年度もあり、見学地を県内1か所に絞り込み、JIA 三重会員限定とした事。昼食は集団ではとらず、午後半日短縮開催とした事で実現できたと感じています。そのような計画から、予めとことん決められたスケジュールの中からは、見えなかったものが、半日開催ならば、例会のプログラムとしても開催可能となり、年に複数回の開催や、目的地に集合すれば、少人数でも開催できる可能性も見えてきたと感じています。

例年なら、伝統の3大事業という建築ウォッチングは、担当委員にとって年度当初の例会から、見学地や食事の段取りで、やりがいを感じながらも、毎回、企画に手を加えられ変わっていくのが通例になっていました。開催時期を迎える頃には、疲弊し、任期を終える頃には、燃え尽きるかのように大変重い事業のように感じていました。今どきの新規会員獲得の為に、

やりがいがありすぎる事業にならないように、この機会に貸切バス食事つきの、日帰旅行化した建築ウォッチングを見直すきっかけになればと考えます。今回は、私自身の勝手な思いを察してか、或いは、こういう時だからこそ、訪れた街に感謝を込めてお金を落としていこうという事だったか、限られた少人数ながら、終了後、開催地にて労をねぎらう機会迄設けていただき、執行部有志の皆様には感謝申し上げます。

本年度の開催場所は、津市内の真ん中よりやや海寄りにある、津観音の門前に広がる歴史ある大門(だいもん)商店街に決定しました。今まで、主に総会開催地であり、例会開催地でもあるお膝元でありながら、JIA 三重で訪れた機会を知らない世代として、50年以上も架けられていたアーケードを撤去し、登録有形文化財のオーデンビルを擁し、浅草、大須、と並ぶ日本三大観音の津観音として、江戸時代には、お伊勢参りで往時の賑わいで栄えた歴史ある街は、一見の価値ありと直感しました。県庁所在地であり、戦国時代には、築城の名士とうたわれた藤堂高虎公が治めた城下町。美杉町には、南北朝時代に一時、南朝の中心地として栄えた、霧山城跡の麓にある北畠神社の庭園も見応えがあります。市内には、まだまだ名所も多く残されており、次年度も、移動手段を考えて、幾つか巡りたいと考えていますが、同じ所ばかりと、ご注文

をいただく事もあるかもしれません。

開催日が近づいてくるにつれて、コロナ禍の状況下、見学地との事前準備をどうするか?当初は、ピッチャーズ(村山邦夫会員の作品)前に勝手に集合し商店街を見学し、観音さんにお参りし解散しようと考えていました。この時期に、商売上先行きが見えない、観光客も来ない、客のいない飲食店、人通りの減少に直面されている街を見学する事に対して、はなはだ、迷惑ではないか、大丈夫なのかと、自問自答を繰り返しているうちに、10月半ば、つかの間のほんの少しの期間、感染者が減少した為、急遽、商店街の組合の方をご紹介頂き、お話をお伺いする事が出来ました。当日は、暖かくお出迎えていただき、案内役として商店街の歴史を語っていただく機会も設けていただきました。ご協力いただきました皆様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。計画から開催まで、行き当たりばったりのように感じますが、直前の最新のタイムリーな情報を提供できると感じ取ることができれば、瞬発力のあるゲリラ的な発想や行為は、新しい事業を展開していくエネルギーに繋がるような可能性を確信した瞬間でもありました。



伊藤 達也 (JIA 三重)
設計工房NEXT



津観音



ウォッチングの様子



オーデンビル



ランタン通り